

国際協働学習ネットワークによる防災教育の実践と成果

～国連 持続可能な開発目標 SDGs の実現に向けて～

防災世界子ども会議実行委員会 創設者 岡本 和子
 実行委員長 納谷 淑恵

温暖化に伴う気候変動によると考えられる洪水・集中豪雨・ゲリラ雷雨などの災害リスクに晒される機会が急速に拡大しており、気候変動対策は世界のかつてない重要な課題となっています。この課題をどうすれば解決することができるのか。防災世界子ども会議 NDYS は 2016 年、気候変動と私たちの住むまちの「防災・減災・復興」をテーマに主体的・対話的で深い学びの視点で課題解決型の国際協働学習をスタートさせました。

1. はじめに

NDYS は、阪神・淡路大震災から 10 年を機に「大震災の教訓を世界の子どもたちに伝えよう、命の大切さを考えよう！」と、ひょうごの子どもたちと海外の学校との交流学习から始まりました。「コミュニケーションが命を救う！」をスローガンに、災害が引き起こす惨状に目をむけ、子どもたちが、命を守る重要性に気づき、命を守る判断、行動、備えができることを目的として開催しました。2005 年、ひょうごから産官学民の連携・協働によるイノベーション事業としてスタートし、グローバルな防災教育ネットワークの基礎を築きました。

2. 目的と方法

2-1 目的

NDYS は、世界と学び合う「国際協働学習」を通じた防災教育の促進を目的とするプロジェクトです。

2016 年は、国連 持続可能な開発目標 SDGs を 2030 年までに達成すべく、17 の目標を設定し、「誰一人取り残さない」社会を目指し、国際社会が新たな出発をする節目の年でした。持続可能な開発を達成するために、気候変動などの災害リスクへの対策は、世界全体で緊急に取り組まなければならない課題です。

1 月、志のある JEARN メンバーのサポートを得て、持続可能な開発目標 SDGs の実現に向けこれまでの 10 年間の実践でつながった 66 カ国・地域の学校が参加する NDYS 国際協働学習ネットワークがスタートアップしました。

そのミッションは、防災協働学習を通して、地球規模での防災意識を共有しながら、それぞれの国・地域にあった持続可能な社会づくり（防災文化の醸成）を目指して、地域社会で行動する人材を育成することです。

また、世界と交わる防災教育の実践で、より広く世界を感じとり、自らの課題やミッションを発見しながら、地球規模の課題解決を担うなど、よりよく活動できる資質や能力をあわせもつグローバル人材育成を目標としています。

2-2 方法

急激に変化し、不安定な社会を生き抜く次世代の子どもたちは、これまでの基礎スキルだけでなく、21 世紀型のコンピテンシー（資質・能力）が必要となります。このスキルを育むために主体的・対話的で深い学びの充実は不可欠です。そして多様な人々の意識や社会を変える原動力となる「ネットワークづくり」が急務です。



Fig.1 国連 持続可能な開発目標 SDGs : 2030 年に向けて持続可能な社会を実現するための地球規模の優先課題などを明らかにした国際目標

NDYS の国際協働学習は、ICT を活用して、世界の小中高校の子どもたちが、さまざまな国・地域の防災の知恵や災害から学んだ教訓を共有し、学び合い、地球規模の課題解決に取り組み、その成果を世界へ、未来へ発信する iEARN の日本発プロジェクトです。半年間のネット上の国際協働学習の後に、総仕上げとして「会議」をもち、連帯を深め、学び続けるコミュニティを築いてきました。

3. 活動内容

3-1 NDYS2016 のテーマ

世界で起こっている課題に対して自分の問題として考えられているか（課題認識が弱い）という点からスタートするために、テーマを気候変動と私たちの住むまちの「防災・減災・復興」と設定しました。

3-2 NDYS 国際協働学習プログラムの実践

期 間：2016年1月から8月

国連 持続可能な開発目標 11 <住み続けられるまちづくり> & 目標 13 <気候変動に具体的な対策を>を達成するために、それぞれの地域の過去の災害、現在の防災状況を学習し、災害が発生したときの問題点を考え、地域の災害安全マップづくりやキッズ防災バッグづくりをしました。テレビ会議や iEARN コラボレーションセンターで意見やアイデア交換をしました。

3-3 ICT が支える学びの環境

テレビ会議をはじめとする ICT と iEARN のコラボレーションセンター、NDYS の WEB が有効に機能し、交流・情報共有・問題解決を通して成果を積極的に海外に発信できる工夫をしました。

3-4 成果発表会

NDYS2016 のまとめとして2016年8月3-8日新潟市で、防災世界子ども会議 2016 in 新潟を琴リピックと同時開催しました。



Fig.2 暮合高等学校のテレビ会議を通しての発表

世界 10 カ国・地域から小中高校生・教師
約 100 名：アメリカ合衆国、イラン・イスラム共和国、インド、インドネシア共和国、オーストラリア連邦、コロンビア共和国、中華人民共和国、トルコ共和国、台湾、日本（ひょうご）

国内 成果発表会 新潟 100 名

テレビ会議による参加 4 カ国・地域 50 名

宣言発表・災害安全マップ展 961 名

生徒一人ひとりが、地球規模な視点から防災を確認することができ、持続可能な社会を拓く防災リーダーとしての素養を身につけることができました。また NDYS が今後どのように、世界と共に SDGs に取り組んでいけばいいのかを示す「新潟宣言」を採択しました。



Fig.3 「防災世界子ども会議 2016in 新潟」に集合！

4. 成果

参加した生徒の感想&自己評価（ループブック）から：①防災といえば、地震や津波を想定していましたが加えて気候変動の影響により求められる防災のかたちが見えてきました。②防災はグローバルな課題であることがよくわかりました。③自分たちの行動が温暖化に結びついているという問題意識が薄かったことに気づきました。④地域の人々の力を生かした備えの大切さがよくわかりました。⑤多文化共生の地域づくりとして、日本語の理解が不十分な住民への情報提供のありかたの改善が必要であると感じました。

備えの大切さは、22年前に阪神・淡路大震災において私たちが学んだ教訓です。また多文化共生は大震災からの気づきです。

プロジェクトに参加することにより、世界に友人ができ、世界とつながっている自分を発見し、広い視野と友情を育てることで、そこから個人的なネットワークが広がり、将来の活動の場の可能性が広がっていくことでしょう。参加のみなさんの10年先、20年先の将来に何がでてるのか楽しみにしています。

新潟宣言

2016 年は、持続可能な開発目標を 2030 年までに達成すべく、17 の目標を設定し、「誰一人取り残さない」社会を目指し、国際社会が新たな出発をした節目の年です。

この年に、防災世界子ども会議 NDYS は、これまでの流れを深め、広げていくためには、持続可能な開発の観点からの防災教育がさらに必要と考え、気候変動と私たちの住むまちの「防災・減災・復興」とテーマを設定し、NDYS2016 より、国連 SDGs 実現に向けた取り組みをスタートさせました。

アイアーンのネットワークを通して、世界 10 カ国・地域から参加の NDYS スクールの子どもたちは、半年間の国際協働学習の総仕上げとして、8 月 3 日 - 8 日、新潟市に集まり、この取り組みの最初の成果を、熱のこもったプレゼンテーションやポスターセッション(災害安全マップ展示など)で、各学校のそれぞれの取り組みを発表しました。

8 月 7 日、琴リピック会場で、今会議の成果をまとめ、次のとおり新潟宣言を採択しました。

(英文)

***“To kindle the passion within,
students need to take responsibility,
for the world is in their hands.”***

(和文)

この胸の内にある情熱の炎を燃やして、
私たち学生は責任を果たしていきます。
世界の未来は私たちにかかっているのですから



新潟宣言を採択し、それぞれの言葉で宣言文を発表しました。

トップをきって、日本代表で宣言する兵庫県・甲南高等学校の藤井君(右)

参加国・地域：アメリカ合衆国、イラン・イスラム共和国、インド、インドネシア共和国、オーストラリア連邦、コロンビア共和国、中華人民共和国、トルコ共和国、台湾、日本

5. 未来への目標・方向性

<国連 持続可能な開発目標 SDGs と NDYS の取り組み>

NDYS2016 で、これまで防災といえば、地震や津波を想定していましたが、加えて気候変動の影響により求められる防災のかたちが見えてきました。「防災・減災・復興」は地球規模の課題です。

この課題解決に向け、対話・国際協働を通して、新しい教育の歴史を共に創っていきましょう！

世界中がつながり、団結し、行動に移すことにより、SDGs でよりよい未来をつくることのできる！



Fig. 4 防災世界子ども会議 NDYS ロードマップ